

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

グローバル人材育成プログラムを終えて

水 山 諒

Ryo MIZUYAMA

情報メディア学科 3年

1. はじめに

2017年8月17日から9月4日まで、アメリカ合衆国カリフォルニア州のサンフランシスコ、サンノゼを中心に、グローバル人材育成プログラムに参加した。本プログラムの日程を以下の表1に示す。

表1 プログラムの日程

| | |
|--------------------|----------------|
| 8月17日 | 入国, シリコンバレーツアー |
| 8月18日 | シリコンバレーツアー |
| 8月19日 | キャリアセミナー |
| 8月20日 9月1日 | インターンシップ |
| 9月4日 | 帰国 |

本稿では、本プログラムに参加した目的、研修内容、プログラム全体を通して得たもの、今後の目標を記す。

2. 目的

本プログラムに参加した目的として、働くということを知る、英語力の確認・向上というものも当然挙げられるが、世界のIT企業が集まる最先端のシリコンバレーでの働き方を見るということを今回の大きな目的とした。

3. 研修内容

本プログラムでは表1に示した通り、シリコンバレーツアー、キャリアセミナー、ホームステイ、企業研修など、様々な経験をした。ここでは、その内容について詳細を記す。

3.1 シリコンバレーツアー

入国してからの2日間はシリコンバレーツアーとして、シリコンバレーの名だたる企業を中心に、企業見学を行った。中でも印象的であったのは、Googleの社内見学である。そこでは、社員の方の話聞きながら、Googleの中でどのような働き方がなされているのかを見ることができ、社内にゲームセンターや、どこからみても50m以内に用意されている食事をとる休憩スペースがあるなど、その自由度の高さに驚いた。

3.2 キャリアセミナー

キャリアセミナーでは、実際にシリコンバレーで活躍されている日本人の山田様、北村様、黒田様の3名の経験を交えながらそれぞれのお話をいただいた。どのお話も大変貴重なものであり、中でも黒田様のお話には今までの経験を通して得た人生哲学のようなものも含まれており、プログラム3日目にして自分の将来設計の上での考え方に大きな影響を与えることになった。

3.3 ホームステイ

キャリアセミナー終わってから間もなく、本プログラムのメインの一つであるホームステイが始まった。今回が自分にとっての初めてのホームステイであったので、日本語の通じない環境に一人で飛び込むことに対してはじめは大変緊張した。そのようなこともあり、はじめは英語を聞き取るのに必死で、辞書や翻訳ツールに頼りきりであった。しかし、ホストファミリーの方々の優しさもあり、テレビゲームをしたり、ボウリングに誘ってもらうなど、アメリカの日常生活に交じっての交流を経験させていただいた。このような交流を通じて次第にコミュニケーションをとることに慣れていき、最終的にはたどたどしくはあるが会話ができるようになった。

また、ホストファミリーとはFacebookの連絡先を交換することもできたので、帰国後も継続して交流できるかけがえのないものとなった。

3.4 企業研修

シリコンバレーでの働き方を見るということを目頭で目的として挙げたが、今回研修させていただいた企業である **hackjpn** はその目的を達成できる最適な環境であった。今回研修として行ったことは以下の3つである。

- ①シリコンバレーに関する調査
- ②スタンフォード大学のビジネススクールの講義動画の要約
- ③シリコンバレー近郊の企業の調査・企業研究

これらを他の研修メンバーと協力しながら交代で行った。これらを通じてシリコンバレーという場所に関しての知識を深めることができた。

また、今回仕事をさせていただいたオフィスは **hackerdojo** というさまざまな企業が集まって仕事を



☒ **hackerdojo**

する場であり、シリコンバレーで活躍する様々な国、年齢の方々と交流を持つことができた。

そのような交流を通じて **hackerdojo** の座談会に参加させていただいき、**Google** や **Apple** などの有名企業の方々の生の声を聴かせていただいた。貴重な機会を得ることができ、研修全体を通じて大変充実したものとなった。

4. おわりに

今回のプログラムに参加した目的としてシリコンバレーでの働き方をみるということ挙げたが、周りの環境に恵まれたこともあり、この目標を達成することができた。

また、今回のプログラムを通じて上記の目的の延長線上にあるグローバル人材とは何かについて考えることもできた。企業研修だけでなく、このアメリカに滞在した約2週間全体を通して、グローバル人材とは幅広い価値観を持ち、人種・民族の隔たりなく世界の人々と共存し物事を成し遂げることのできる人材であるというように感じた。

共存するためにはコミュニケーション能力は必要不可欠であり、グローバルに活躍する上で基盤となるのは当然英語である。このプログラムを通じて英語力の低さを痛感することとなったので、コミュニケーションツールとしての英語力の向上を今後の課題としたい。